

今後の研究展望（2020年から現在に至る）

大学の教員は研究・教育・校務・社会貢献の4つの柱を担っていると考えています。大学の在り方や教員の立場により比重が研究>教育>校務>社会貢献、校務>教育>研究>社会貢献、教育>校務>研究>社会貢献、等その比重の割合は様々でしょう。私学の場合には学生募集がうまくいかなければ大学自体の存続が難しいことから、研究だけしていればよいという場合は極めて稀でしょう。

私自身難しいと思っているのは、研究の内容＝教育と直結していない場合が多いということだ。また、1科目だけを教えればよいこともなく、メインの研究にその周辺の分野についても講義を担当できるかどうか、大学への大きな貢献となると考えています。従って、教育の水準を維持するための教材研究を主とした研究、自分の興味関心を主とした学術研究に大別されるものと思います。この2つの研究をもとに社会人や地域住民に対する講座などを開講した場合の講師を務める社会貢献があります。特に、ここ数年、私自身それなりに大きなプレッシャーを感じるものとして教員免許所状更新講習があります。現役の小中高校の先生方への講習（講義）となります。最新のもので、現場の教育に還元できる内容は、いわゆる大学で通常扱う内容のものとは異なるため、この準備はまた別のものになります。

私自身の場合には教職課程を担当していることから、ここで扱っている内容がかなりそのまま教員免許所状更新講習の教材としても活用できるという利点があります。こうしたこと考えながら以下のように取り組んでいます。

●研究展望1（開講授業のための教材研究）

英語文学（英米文学史）、英書講読1（英書講読）

- 1 映画化された英米文学、英語文学
- 2 話題となった英語スピーチ（アメリカ大統領就任演説、ノーベル賞受賞スピーチ、国連でのスピーチ、その他のスピーチ）
- 3 文芸作品の名文・名句（特にシェイクスピアをはじめ、英米文学作品から）

国際文化交流、ポップカルチャー論

- 1 クール・ジャパンの行方
- 2 オタク・オタク文化の変遷

- 3 ハロウィーンの間方（特に渋谷ハロウィーンの間方）
- 4 オリンピック・パラリンピックについて

教職課程（英語科教育法、総合的な学習の時間の指導法）

- 1 マンガ、アニメを活用した教材研究（英語科教育法）
- 2 生活英語を活用した教材研究（英語科教育法）
- 3 SDGs を活用した教材研究（総合的な学習の時間の指導法）
- 4 障害者スポーツ（総合的な学習の時間の指導法）
- 5 高齢社会と AI（総合的な学習の時間の指導法）

●研究展望 2（学術研究）

シェイクスピア

- 1 口演としてのシェイクスピア（朗読、落語、講談）
- 2 日本の伝統芸能とシェイクスピア（狂言、歌舞伎、能、人形浄瑠璃）
- 3 日本への受容研究
- 4 日本シェイクスピア情報の整備（研究書誌、上演年表、翻訳書誌）
- 5 シェイクスピア映画研究（翻案、N次創作を含む）

※シェイクスピア・ニュース・フロム・ジャパン幹事代表、ワールド・シェイクスピア・ビブリオグラフィー国際委員日本代表、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館招聘研究員としての活動が中心。

ワイルド

- 1 日本への受容研究
- 2 日本シェイクスピア情報の整備（研究書誌、上演年表、翻訳書誌）

国際文化交流&ポップカルチャー

- 1 オタク研究書誌の整備

- 2 文芸から見たロボット書誌の整備
- 3 テーマパークと若者文化
- 4 クール・ジャパンとポップカルチャー
- 5 日本のハロウィーン

※日本ハッピーハロウィン協会会員として活動しています。

※中国・湖南省日本文化研究・交流センター招聘専門家として活動しています。

●社会貢献

- 1 マンガ、アニメでも勉強になる
- 2 スーパー戦隊シリーズと仮面ライダーシリーズ

※子ども大学さやま、子ども大学かわごえでの講師

※彩の国アカデミー（高大連携）コラボレーション講座講師

- 3 教員免許状更新講習

※担当分野

「小学校英語の教科化に向けて」

「豊かな人間性をはぐくむ指導力 の向上」